

授業計画

科目名（副題）		開講年次	単位	担当者名
対話と支援		2025 年（後期）		山本登志哉
授業概要				
「障がい」というと「〇〇ができない」「〇〇をしてしまう」など、本人というより周囲の人の困りごとから理解されることがどうしても多くなります。そうすると、「障がい者」は自分のことを理解してもらえずに、回りから自分のことを誤解されて勝手に決めつけられてしまっていると悩む場面が多くなり、とても苦しい思いを抱えた生活になってしまいがちです。 この授業では、もう一度お互いのひとりひとりの人となりを知り、その思いを理解し合うことから、お互いに合った関係の作り方やそこでの支援の仕方を考える足場づくりを目指しています。障害の有無に関係なく、お互いに他の人とは違いを持っている自分であることを否定せずに、なおかつそこに人として共有できる部分を見つけて一緒に生きる「多様性を大事にした共生」の模索です。 そのために、毎回おひとりからご自身が「障がい」をめぐる感じたこと、考えてきたこと、趣味の話、得意な事、苦手な事、普段から不思議に思うことなど自由に語っていただき、そこから感じたことや考えたことを交流していきます。前期では「お互いの趣味」を語り合うことで、その人の人生が豊かに見えてきたり、共感の世界が作られていく展開がありました。				
授業目標				
違う条件を抱えながら生きてきた ひとりひとりの人生の「物語」を重ね合わせ、新しい理解を生み出しながら生きることを意味を豊かにしていくことが目的です。そこから支援の意味を考え直すということでもあります。				
成績評価方法・基準				
毎回がみなさんの「発表」の機会です。またそこで意見を交し合うことで「参加型の授業」となります。その参加によってみなさんが何を得られたと感じたか、ということをお話しいただいて、自分なりに頑張られたときに、その人に合った頑張りに応じて成績が評価されます。				
教科書・教材・参考文献 等				
「自閉症を語りなおす：当事者・支援者・研究者の対話」（新曜社刊） 「開かれる自閉：医者・心理学者・当事者のポリフォニー」（晃洋書房） 「文化とは何か、どこにあるのか：対立と共生をめぐる心理学」（新曜社）				
質問への対応				
授業全体が質問と応答のコミュニケーションで成り立ちます。				
授業経過				
項 目			内 容	
1	10 月 06 日	ガイダンス	授業の趣旨を説明し、自己紹介ののち、参加者に合わせて具体的なやりかたを考える	
2	10 月 20 日	語り合い 1	発表者の思いや経験を共有する	
3	10 月 27 日	語り合い 2	発表者の思いや経験を共有する	
4	11 月 10 日	語り合い 3	発表者の思いや経験を共有する	
5	11 月 17 日	語り合い 4	発表者の思いや経験を共有する	

6	12月01日	語り合い5	発表者の思いや経験を共有する
7	12月08日	振り返り1	語り合いを通し、改めて「障がい」や「支援」。そして「共生」について考え、後半のやりかたを調整する
8	12月15日	語り合い6	発表者の思いや経験を共有する
9	12月22日	語り合い7	発表者の思いや経験を共有する
10	01月05日	語り合い8	発表者の思いや経験を共有する
11	01月19日	語り合い9	発表者の思いや経験を共有する
12	01月26日	語り合い10	発表者の思いや経験を共有する
13	02月02日	語り合い11	発表者の思いや経験を共有する
14	02月09日	振り返り2	語り合いを通し、改めて「障がい」や「支援」。そして「共生」について自分の考えがどんなふうに変化してきたかを交流する
15	02月16日	全体のまとめ	この授業の経験が今後の人生にどんな意味を持つものになったか、ということを考えながら、話し合いの流れを振り返ってまとめる。
履修者へコメント			
自分を知り，人を知り，お互いの世界をつないでいくことの楽しさを一緒に作っていきましょう。			